

# 御言葉を食べたエレミヤ

エレミヤ書 15 : 15 - 21



司祭 ヨハネ 井田 泉

2023年9月3日

聖霊降臨後第14主日

上野聖ヨハネ教会にて

預言者エレミヤ。今から 2600 年くらい前、ユダ王国末期に活動した人です。

当時のユダ王国は、新バビロニア帝国から圧迫されて、滅亡の危機にありました。けれどもさらにエレミヤを苦しめたのは、人々の心が神から離れてしまっている、ということでした。神から心が離れれば、偽りや搾取、暴力がはびこります。

エレミヤは、20 歳前後でしょうか、神に捕まってしまいます。神は手を伸ばして、エレミヤの口に触れ、その口にご自身の言葉を入れてしまわれました。彼は願わないのに、一方的に神によって預言者とされてしまったのです（エレミヤ書第 1 章）。

彼の口に入れられ、彼の身体の中に宿った神の言葉は、今度はしばしば彼の口から出ようとします。エレミヤは黙っていたのに、自分の中から言葉が溢れ出る。世と人の現実を批判する厳しい言葉を、神が彼に語らせられるのです。その結果、彼は非難、迫害を受けることになります。彼の故郷アナトトの人々までが、彼の命を奪おうとしました。

その時のエレミヤの嘆きの祈りが、今日の旧約聖書日課です。

**「あなたはご存じのはずです。」 エレミヤ書 15:15**

あなたは知っておられます。こう言ってエレミヤは神に訴えます。エレミヤの労苦も嘆きも、孤立も迫害も、神は知ってお

られる。そう彼は信じています。信じつつも、神が沈黙しておられるのが耐えがたい。彼の嘆きと怒りは、ついに迫害する者への復讐を神に求めるところまで達します。

「あなたのご存じの**はず**です。

主よ、わたしを思い起こし、わたしを顧み

わたしを迫害する者に復讐してください。

……

わたしがあなたのゆえに

辱めに耐えているのを知ってください。」 15:15

「あなたのご存じです」あなたは知っておられます、と祈った彼は、今は「主よ、知ってください」と嘆願します。知っていてくださるはずの方に、もっとはっきり知ってほしいのです。この現実を、この苦しみを。

けれどもエレミヤはこの嘆きの中で、昔のことを思い起こしてこう言います。

「あなたの御言葉が見いだされたとき

わたしはそれをむさぼり食べました。

あなたの御言葉は、わたしのものとなり

わたしの心は喜び躍りました。」 15:16

彼は世の中に合わせて身を処していく、というふうには生き

ていけない人でした。彼は、自分がそれによって生き、それによって死ぬるようなほんとうのものを求めていた。真理、真実に飢えていたのです。

**「あなたの御言葉が見いだされたとき……」**

控えめな表現ですが、彼は、求めていたものを見いだしたのです。それは主の言葉でした。

**「わたしはそれをむさぼり食べました。」**

飢えていた彼は神の言葉を「むさぼり食べました」。食べて命を得ました。神の言葉が自分の血となり肉となった。神の言葉を食べて彼は生きることができるようになったのです。

**「あなたの御言葉は、わたしのものとなり**

**わたしの心は喜び躍りました。」**

この上なくうれしかった。神の言葉は喜び、力、命となりました。彼は、神の言葉を食べて命を回復しました。心は喜び躍りました。それを今、思い起こします。生涯最大の喜びでした。

けれどもその後起こったことは辛いことでした。彼の命となった神の言葉は、彼の中で燃え上がって、世の中の悪を責める言葉となり、人々の神への不真実を突き刺す言葉となりました。彼は「争いの絶えぬ者」(15:10)とされ、非難、嘲笑、迫害の対象となりました。彼は深く傷つきました。

彼は今、神に訴えます。

「なぜ、わたしの痛みはやむことなく  
わたしの傷は重くて、いえないのですか。

あなたはわたしを裏切り

当てにならない流れのようになられました。」 15:18

「当てにならない流れ」とはいわゆる「ワジ」です。雨期には川になりますが、乾期には干上がってしまう。慰め癒やし潤してくださるはずの神を求めたのにまったくそうではない。あなたは水のない川だ、と神に抗議するのです。

ここでようやく神は沈黙を破って答えられました。

「あなたが帰ろうとするなら

わたしのもとに帰らせ

わたしの前に立たせよう。

もし、あなたが軽率に言葉を吐かず

熟慮して語るなら

わたしはあなたを、わたしの口とする。」 15:19

厳しい言葉です。神は少しも優しくありません。しかし神は、エレミヤのこれまでの活動を正しいとされます。ひるんではならない。後退してはならない。

「あなたが彼らの所に帰るのではない。

彼らこそあなたのもとに帰るのだ。」 15:19

そして主は言われます。

**「わたしがあなたと共にいて助け  
あなたを救い出す。」 15:19-20**

この言葉をエレミヤは再び食べるように心と体に受け入れて、立ち直ります。この言葉によって神は、彼を預言者として立て直されたのです。

御言葉を食べて生きる——そのようなことを聖書の中で聞いたことはあるでしょうか。実はイエスさまがそうだったのです。

エレミヤからおよそ 600 年後、イエスさまが 30 歳のときです。公に働きを開始される前、荒野でひとり断食し弱り果てたとき、サタンの誘惑にさらされました。

サタンがイエスに「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ」（マタイ 4:3）と言ったとき、イエスはこう答えられました。

**「『人はパンだけで生きるものではない。  
神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』  
と書いてある。」 マタイによる福音書 4:4**

「書いてある」というのは、聖書に書かれているということです（旧約聖書・申命記 8:3）。

「**神の口から出る一つ一つの言葉**」。これによってイエスは生きておられた。主イエスは神の言葉を、聖書の言葉を食べて生きておられました。それだからこそ、今日の福音書で聞いたよ

うに、イエスは十字架への道を歩み通されたのです（マタイ 16:21）。

同じことを、程度の差はあっても、わたしたちも経験したい。わたしたちも神の言葉を食べて生きたい。聖書の言葉には力があり、命があるのです。神はわたしたちを生かそうと願って、御言葉を与えようとしておられます。

具体的にわたしがしていることをお話ししますと、毎朝聖書日課を読みます。詩編、旧約聖書、新約聖書の三つです。そうして読んだ言葉の中から、1行を選んで心にとめて、ノートに書きます。選んで心にとめてノートに書いた言葉は、わたしの力となり命となって蓄積されます。もしこれがなければ、わたしは務めを続けることはできなかつたでしょう。

皆さんも、ご自分なりの方法を決めて実行してくださることを期待します。

聖書はわたしの内に神の声を聞かせます。今日、エレミヤが聞いたこの言葉をわたしたちもいただきましょう。

**「わたしがあなたと共にいて助け  
あなたを救い出す。」 エレミヤ 15:20**

祈ります。

神さま、わたしたちにも命の御言葉をお与えください。それを食べて生きるように、聖書を愛させてください。イエスさまのみ名によってお願いいたします。アーメン